

神田明神文化交流館の工事に採用

国産針葉樹塗装型枠用合板「ドルフィンコート」

神田神社（東京都）が建設を進めている神田明神文化交流館の工事に、国産針葉樹塗装型枠用合板「ドルフィンコート」が使われた。今回使用された量は3×6判およそ1000枚（約4000平方メートル）。

環境に配慮した製品に注目集まる

ドルフィンコートは

今回ドルフィンコー

ある施設の工事である

西北プライウッド（東

トが使用された神田明

ことや、主な木材に多

京都、井上篤博社長）

神文化交流館は、同神

摩産材を使うなど国産

と双日が昨年3月に設

社の創建1300年の

材も活用されているこ

立した型枠用合板の表

奉祝に向け、昨年6月

とから、型枠用合板に

面塗装会社ドルフィン

に着工。地上4階建・地

も国産材を使った環境

コートのオリジナルプ

下1階のS造一部木造

配慮型商品を活用しよ

ランド。昨年6月から

の建物で今年11月の竣

ろと双日建材が納材流

双日建材（同、大西哲

工を予定している（昨

通を通じて工事を担う

也社長）が販売してい

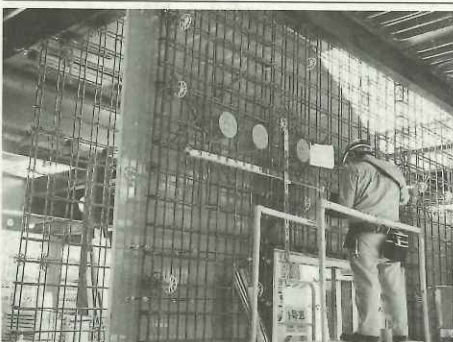
年4月18日付既報）。

鹿島建設に提案した。

る。

神田明神という歴史

昨年11、12月にかけて



高評価だったドルフィンコート

地下の壁や屋上の型枠工事に使われ、鹿島建設現場責任者の米盛慎一氏は「輸入合板とそん色なく使うことができた。塗装の緑色も鮮

明で、現場では好印象」と話している。またこの工事ではドルフィンコートとともに、西北プライウッドが以前から製造している国産針葉樹塗装型枠用合板「セイホクコート」も使われている。

ドルフィンコートの販売は徐々に拡大しており、今年度は月間販売量15万枚

を予定している。さらに市場シェアの拡大を進め、2019年度は同20万枚、20年度は同40万枚とし、目標である月間販売量50万枚を目指していく予定だ。